

# Handsome

April 2014 No.305

実  
行  
力  
「人こそ最大の財産」  
Positive Forward  
自ら進んで一歩を踏み出す

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 渡辺一徳  
◆編集責任者/担当 副会長 福庭貴志 ◆制作・編集 第39期広報委員会/委員長 生田育永

## 第40期 次年度副会長・専務理事決定!



### 【副会長】濱田 修 会員

(平成17年3月入会)

【生年月】昭和49年9月生まれ A B型

【所属企業・役職】(株)ホクシン

【中央会経歴】

平成22年度 輝委員会 副委員長

平成24年度 道州制問題検討委員会 委員長

### 【副会長】長谷川洋司 会員

(平成18年6月入会)

【生年月】昭和46年6月生まれ B型

【所属企業・役職】WORKS

【中央会経歴】

平成20年度 総務委員会 副委員長

平成23年度 地域ビジョン委員会 委員長

平成24年度 県出向理事

### 【副会長】竹ノ内賢一郎 会員

(平成19年8月入会)

【生年月】昭和50年5月生まれ A型

【所属企業・役職】(株)サンクリーン

【中央会経歴】

平成21年度 広報委員会 副委員長

平成22年度 総務委員会 委員長

平成23年度 県出向理事

平成24年度 専務理事

平成25年度 県出向監事

### 【副会長】小椋崇永 会員

(平成13年10月入会)

【生年月】昭和46年9月生まれ B型

【所属企業・役職】永大(焼肉うえば)

【中央会経歴】

平成19年度 環境問題委員会 委員長

平成24年度 県出向理事

### 【副会長】白石博昭 会員

(平成19年10月入会)

【生年月】昭和47年2月生まれ A型

【所属企業・役職】しらいし設計室

【中央会経歴】

平成21年度 総務委員会 副委員長

平成23年度 県出向理事

平成24年度 教育対策検討委員会 委員長

### 【専務理事】秋里武信 会員

(平成22年1月入会)

【生年月】昭和48年10月生まれ A型

【所属企業・役職】水道屋あきさと

【中央会経歴】

平成24年度 政治行政委員会 副委員長

平成25年度 ビジネス経営委員会 委員長

# 3月例会開催

ワークショップ 西部青年中央会版 ワークショップの実践  
～未来のカタチを考える～

平成26年3月17日(月)、ホテルサンルート米子にて絆委員会担当の下、3月例会が開催された。



初めに、渡辺会長より「人こそが最大の財産であり、会員こそが最大の財産である。中央会の良さは一つの議論に対して、白熱することができること。仲良しこよしではなく、言い合える仲間がいることである。今回のワークショップでも健全な意見を交わして欲しい」と挨拶があった。

続いて、新入会員バッジ授与が行われ、田代会員より「中央会の仲間になって、一所懸命頑張っていきたい」との言葉があった。また石原会員より結婚の報告がされ、お祝いが贈呈された。



さらにこの3月例会では、臨時総会が開催され、満場一致にて次年度副会長・専務理事が選任された。



委員長タイムでは、政治行政委員会の千石委員長が、役員会に必要な7つ道具の紹介などユーモアを交えて、役員会における委員長としての仕事の苦労や

楽しさを語られ、今後会員が委員長に就任する際の心構えを述べられた。

その後、絆委員会の辻委員長より「今回ワークショップの基本を学び、実践することで、今後の中央会の会議手法の一つとして利用できるよう、また今回の成果を今後の中央会活動に活かせるよう、会員それぞれが新たな気づきを得て欲しい」と本例会の趣旨説明がなされた。



そして森下会員よりワークショップの流れ・注意点などの説明があった後、A～Hの8チームに分かれた各テーブルでは、ファシリテーターの名仕切の下、活発な意見交換がなされた。

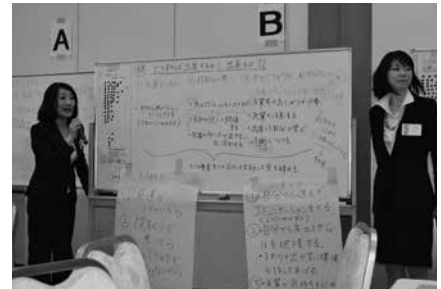


まずは「(中央会活動に)顔を出せる状況をつくるには？」というテーマに関して、原因を簡潔に述べてもらい、出た意見を3つ程度の項目にまとめていった。

そして次に、それぞれの原因に対し

てどうすれば解決できるのかを考えた後、出してもらった意見をまとめていった。

さらにチーム全員の合意を得て意思決定を行い、板書係により模造紙にチーム毎に決定事項が書き記された。



その後、参加者全員により、興味深いと思われたチームの投票が行われ(バザール)、その結果、見事B班が1位を獲得した。B班の板書係を務めた北島会員より「主体的にコミュニケーションを取り、スケジュール管理をしっかり行い、役割を持って会に臨むことが大事である。そのためにはまずは会に出て学ぼう」との発表があった。

本ワークショップでは、各チームとも入会年度が近い人たちで構成されていたため、偏った意見になってしまうことが懸念されていた一方で、本音を出しやすい雰囲気となり、それぞれのテーブルでは、笑いあり、白熱した意見ありで、非常に盛り上がっていた。

本例会で体験したワークショップは、今後の中央会活動はもとより、実務においても新たなコミュニケーションツールとして、充分利用価値のある内容であったと思われる。

最後に桑本会員より「本ワークショップが時代にあった中央会運営、また中央会生活に役立つと良い」と総括があり、3月例会は閉会した。

(記事:田中猛)

## 例会を終えて… 絆委員会 委員長 辻 拓哉



今回の例会の目的は、①ワークショップを西部青年中央会の会議手法の一つに位置づけるきっかけとすること、②ワークショップの題材を西部青年中央会に関わるものとし、成果を今後の活動に繋げること、③また、目標(ゴール)は会員それぞれが気づきを得ること、としました。今回はワークショップを構成する3要素であるチーム・プログラム・ファシリテーターに注力し、目的・目標を明確にした上で例会に臨みました。

当日は入会年度順に8チームに分けてワークショップを行いました。各チームにファシリテーターと板書係を配置して進化したこと、発表をバザール形式の多重投票にしたことにより、皆が体験してみて初めてわかる新たな学びと気づきを得ることができたと思います。

今回の体験が会員にとって西部青年中央会のみならず所属企業や地域社会にワークショップを活用するきっかけとなれば幸いです。

# 趣味??「言う」言う

## 山内の「読むことへの挑戦」

「読むことは旅をすることである。旅をすることは風景の声に耳澄ますこと。見えない歴史を旅することだ。」

私が勤める会社の会議室に入ると目に飛び込んでくる言葉だ。

会社の会議室は図書室が併設されており、社員なら誰でも好きな本を借りる事ができる。

その会議室に飾ってある、詩人・長田 弘の言葉である。「読むこと」の大切さを直感的に感じさせてくれる素敵な言葉である。

最近読んだ本で『ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則』（ジム・コリンズ著）と『7つの習慣』（スティーブン・R.コヴィー著）は読んでいて実に楽しかった。リーダーとしての在り方をしっかり勉強できた。本に出会えて感謝！である。

一方で今、私の書棚に二冊の未読本が置いてある。「読まなきゃ」と思っているのだけど見た目がいまにも分厚すぎてなかなか1ページ目がめくれない。

『ザ・ゴール』（エリヤフ・ゴールドラット著）537ページ。

『競争の戦略』（MEポーター著）462ページの2冊である。

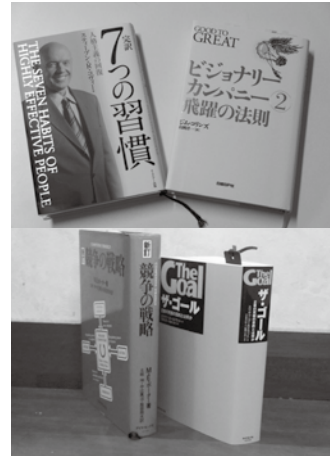
これがタブレットなどのデジタルデバイスなら、厚みもわからないし重さも感じないので、読み始めたかもしれない。

時代の潮流でデジタル化が進んだ現代では、本を手にとって読むという事が少なくなっている。でも本は、その重さを手に感じて読むことが価値であり、だから読んだ実感が残るものだと思う。

1ページがめくれない本と向き合う事は、私にとって「読むことへの挑戦」である。

そして、今日も1ページ目をめくる努力をしてみる。

いつの日かこの挑戦が、『見えない歴史の旅』と思える日が来ると信じて・・・。



イベント突撃  
レポート！  
No. 1

## 平成25年度 鳥取県中小企業青年中央会ビジネス交流会開催

平成26年3月1日（土）、鳥取県民体育館にて、平成25年度鳥取県中小企業青年中央会のビジネス交流会が開催された。今年度の交流会は、前年度に米子で開催されたビジネス交流事業を引き継ぎ、西部地区からは55名の会員・OBが参加し、総勢約150名が集う一大イベントとなった。

交流会は綱領唱和の後、水野県会長よりの「県の事業をきっかけに、地域の垣根を越えて、仕事を通して信頼関係を築いて頂けたらありがたいと思います」との挨拶で幕を開けた。

第一部では、株式会社流通プランニング研究所の川上正人氏に「つながりの作り方」と題して基調講演を行って頂いた。そこでは“人脈”の真の意味や、自社の志を説明できるようにしておく事の大事さ、中間目安の設定、自社紹介の要点の事前把握（トレーニングシートも配布いただいた）など、ビジネスマッチングの方法論についてもお話いただき、最後は「自社の志に同意してくれる人は、初対面でも人脈に近いものになる」と締めくくっていただいた。

その後第二部に移ると、各地区より数名ずつ企業PRを行ったのであるが、各地区各会員様々PRが見られ、会員企業に関する新発見も随所に見られた。（西部地区からは、桑本会員・三嶋秀文会員・北島会員・緒方会員・高田典宗会員の5名がPRしたが、それぞれの企業の特徴や商品も分かりやすく、かつ魅力的な説明であった。） また、企業展示を行うコーナーでは、多数の現役会員所属企業の他、㈱ランドサイエンスの永田OBにもご参加いただいた。

場所を移しての懇親会では、東部で飲食業に関わる会員企業の自慢の味がブースで登場。オードブル・寿司・焼肉をはじめ、カレー・焼きそばから沖縄限定のアイス等のデザートに至るまで、非常に美味しく、元県会長で東部の田中寛之OBより差し入れていただいた飲料と共に、懇親のもう一方の主役になった。

今回は、鳥取への移動時間を含め、講演会・会員の企業PR・企業の展示会・懇親会と盛りだくさんで、その分だけ西部会員の絆が深まったようにも思える「中央会」な一日であった。参加された皆様、ご苦労さまでした。

（記事・荒川・竹谷）

## 言わしてごじない

### 障がい者の賃金アップの現状とこれから

～就労施設の課題（後編）～

広報委員会 小谷 泰樹

前回は障がい者就労施設の現状について紹介しました。今回は、行政や企業の取り組みについてレポートします。

昨年、障がい者就労施設への発注増を目的とした「障害者優先調達推進法」が施行され、国・自治体は施設からの物品調達をより推進すること、また物品調達に積極的な企業に対して優遇措置を与えるなど環境整備する事を促している。

例えば、鳥根県は施設からの物品購入金額が年間120万円を超えた企業を障がい者就労応援企業「しまねゆめいくカンパニー」として認定し、入札時に加点するなど優遇措置を行っている。公契約の多い建設業を中心に制度を利用する企業が増えてきた（現在37社）。

鳥取県では昨年度、県の発注目標金額を2,500万円とし前年比で倍増させた。但し、企業への優遇措置等については現在、検討中だ。

「しまねゆめいくカンパニー」の発注合計額は、それだけで鳥取県の発注目標額をはるかに超える金額だ。これは施設への発注量を増やす為、企業の力がいかに必要かを表していると思う。その意味で、このように企業への優遇措置を行うことは施設への発注増の為にとても効果的な政策ではないだろうか。

私は、企業の積極的な関与は様々な効果を施設や施設で働く障害者にもたらすと考えている。

ひとつは、陳腐な言い方かもしれないが『仕事のやりがい』だ。施設の仕事は単純作業が多い。それを否定するつもりはないが、誰も同じ作業の繰り返しばかりでは仕事への意欲を高めることは難しい。しかし、企業との取引が増え、新たなニーズが増えることは作業する障がい者の創意工夫・意欲を刺激し、それを達成することで仕事のやりがいや喜びを感じられる機会がより増えるのではないだろうか。それは賃金アップだけではない障がい者就労支援のひとつの形だと思う。

もちろん仕事が全てではないと思う。就労施設とはいえ居場所を目的として施設に通う障がい者も多くいる。しかし、施設と企業が積極的に取引できる環境が整備されてくれば、そこに向かっていく施設とそうでない施設は自ずと差別化されてくる。どのような施設を選ぶか、障がい者の選択肢は増えるのではないだろうか。そうなれば施設間の競争やサービス向上を促し、結果として障害者の賃金アップにつながる可能性があると思う。

鳥取県庁の担当者は「ぜひ皆さんのいろんなアイデアを教えていただきたい」と積極的に具体案を模索中だ。私は、社会貢献やボランティアの精神は大切だが、それだけに頼らず継続的な仕組みをつくる上で、企業に対する明確なメリットの提示は欠かせないと感じている。

障がい者に関する問題は総じてセンシティブで難しいと思われがちだ。しかし、慎重になりすぎることは無関心を招きかねないと思う。私も企業人のひとりとしてこの問題をこれからも考えていきたい。

# OB訪問 探偵！TSCスクープ

## 村岡誠一OB (第32期卒)を訪ねて



村岡OBは、37才のときに中部青年中央会に入会。副会長などの役職を務められ、42才のときに西部青年中央会に入会し卒会を迎えられた、異色の経歴の持ち主である。

「会の理念は同じだけれども、やはり最初は戸惑いがあった。しかし、二次会の司会などを率先して引き受けることによって、土地勘のない地域で100人以上の新たな知り合いができたことは、大変有り難いことだった。」と、当時を懐かしそうに振り返っておられたのがとても印象的だった。

そして、現役会員に対しては、「役をお願いされるときが華なので、役は積極的に引き受けるべき。会から頼りにされている存在だからこそ、役が回ってくる。」とのメッセー

ジを頂いた。ただし、「会の活動に、常に10割の力をつぎ込んで突っ走ってしまうとバンクする。自分の事業に負担を掛け過ぎてまで行う活動は、活動ではない。バランス感覚が大切。」との注意も同時に頂いた。

中央会には、皆、常に忙しいメンバーばかりが集まっている。その中で、上手く時間をやり繰りしながら活動していく力を身に付けていくことが、中央会でも事業でも成功する秘訣であると改めて認識した。

今、村岡OBは、ビル型の婚礼式場を事業の一つとして展開しておられる。地方では極めて珍しい新たな挑戦であるが、優しい喋り口調の中にも、中央会と事業に対する熱い思いが感じられた。

最後に、音楽家をされておられる村岡OBの2人のお嬢様方が、4月19日に全日空ホテルでディナーコンサートを開催される。現役会員の皆様方は、是非ご出席を！  
(記事：三嶋秀)



### 〈新入会員〉

(総務委員会)



**田代 緯** O型  
 (仮)たしろ 取締役ゼネラルマネージャー  
 美容・エステティック・ネイル・ブライダル  
 〒690-0843 鳥根県松江市末次本町44  
 TEL (0852)27-3962 FAX (0852)28-2307  
 (KT) 090-4949-6462  
 (EM) t.tashiro@tashiro-group.com  
 S 48.08生

〈コメント〉

この度入会させていただきました。田代緯と申します。美容・エステ・ネイル・ブライダル業の経営をしております。松江に在住ですが、米子の皆さまの仲間に入れていただきたく、入会しました。ご指導の程よろしくお願致します。

## 2月度委員会報告

### 絆委員会

平成26年3月5日(水) 19:00～ 場所:米子コンベンションセンター第1会議室  
 議題 / ・役員会報告 ・3月担当例会について  
 ・ワークショップの実践 ・会員拡大について  
 ・その他

### ビジネス経営委員会

平成26年3月7日(金) 19:00～ 場所:ホテルアクシス  
 議題 / ・役員会報告 ・2月例会の反省  
 ・会員拡大について ・その他

### 政治行政委員会

平成26年3月11日(火) 19:00～ 場所:鳥取県立武道館2階研修室  
 議題 / ・役員会報告 ・5月例会について  
 ・会員拡大について ・その他

### 広報委員会

平成26年3月6日(木) 19:00～ 場所:レストランぶどうの木  
 議題 / ・役員会報告 ・ハンサムについて ・会員拡大について  
 ・視察研修について ・会員手帳について ・その他

### 総務委員会

平成26年3月6日(木) 19:00～ 場所:喫茶 ウイング本店  
 議題 / ・役員会報告 ・4月レクリエーション例会について  
 ・会員拡大について ・その他

### 40周年記念事業委員会

平成26年3月6日(木) 19:00～ 場所:こうりん坊 米子  
 議題 / ・役員会報告 ・40周年事業について  
 ・会員拡大について ・その他

## 40周年記念事業委員会

40周年記念事業委員会の財務部部長を務めさせていただいております福山輝展です。

我々財務部の仕事は、事業予算の策定、出入金の管理がメインになりますが、協賛金やチケット代金の集金業務なども担当させていただいており、各部と連携しながら進めています。

私は周年事業に関わらせていただくのは今回が初めてですが、財務部として活動しながら、また他の部の取組みの様子からも、周年事業の意義・事業規模の大きさ、責任の大きさを日々感じながら、財務部の事が頭を離れることなく毎日を過ごしております。部会メンバーからの様々な意見から学ぶ事も多く、本当に貴重な経験をさせていただいていると感謝しております。

周年事業を無事成功させ、事業の収支決算がきちりと完了するまでしっかりと役目を果たせるよう全力で努めて行きますので、皆様どうぞよろしくお願いたします。

(40周年記念事業委員会財務部部長 福山 輝展)

### 4月役員会報告

3月役員会が平成26年4月1日(火)米子コンベンションセンターにて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・3月例会開催報告の件
- ・4月例会開催の件
- ・その他

\*なお、詳細につきましては、各委員長までご確認下さい。

### 平成25年度4月レクリエーション例会のご案内

と き : 平成26年4月13日(日) 10:00～15:00  
 ところ : 鳥取県立大山青年の家  
 内 容 : 「楽しく遊ぶ ～創造して、集中して、協調して、感動して～」  
 担 当 : 第39期 総務委員会

### 編集後記

39期委員会もあと2回。先輩の皆様にご指導して頂き、心より感謝しております。

失敗を次に活かせなくて悔しい想いがたくさんありますが、自身の成長・勉強のためにも

頑張ります！(花粉症と戦いなら・・・)

(吉田)